

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス じょうなんキッズ		
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 1日		～ 令和 8年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 3日		～ 令和 8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 4月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人が障がい福祉サービスにおいて様々な機能を持っています。	一人ひとりの障がい特性に応じて、将来を見据えた支援や助言を行っています。また、他サービスや関係機関と連携し、必要なタイミングで提供できるよう意識して取り組んでいます。	就労系サービスや生活介護、グループホーム等、卒業後の見通しが明確になるよう、職員が情報収集を行いながら、他サービスや関係機関との連携を一層深めています。
2	各種専門職を配置し、特性に応じた支援を行なっています。	理学療法士や保育士などの専門職が、お子さまの発達段階に応じた支援を行っています。職員は児童分野に加え、保育・障がい福祉・医療・栄養など多様な経験を生かし、特色ある活動を展開しています。	職員の資格取得や各種研修への参加を積極的に進めています。職員一人ひとりのスキル向上を図ることで、今後さらに質の高い支援の提供につなげていきます。
3	アセスメントを重視しており、一人ひとりの強みを見つけて支援します。	様々な特性の中から得意なことや強みを見つけられるよう、丁寧にアセスメントを行っています。環境面の工夫(構造化など)を取り入れながら、お子さまの意思を尊重した支援を行っています。	一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりとともに、様々な場面で自分で選択・意思決定できるよう、今後も支援の充実を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のほかの子どもと活動する機会がない。	集団活動やコミュニケーション面に課題があるため、現段階では他児との関わりが難しい状況です。今後の関わりにつなげるため、まずは事業所内での支援に取り組んでいます。	地域の学校に通われているお子さまについては、学校での友人関係の様子を踏まえながら必要な支援を行います。支援学校に通われているお子さまには、居住地交流など学校での取り組みを補えるよう支援していきます。
2	保護者同士の交流する機会が少なかった。	今年度は家族交流会のみの開催となりました。今後は参加しやすい内容や日程の見直し、参加人数の増加につながるよう検討していきます。	より多くの方に参加していただけるよう、事前にアンケート等でニーズを把握し、参加しやすく関心の持てる内容の交流機会を企画していきます。